2017年7月号「vol.85」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-10-6　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-751-7600

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

新たに森林の崩壊地対策等も実施 県の第3期水源環境保全・再生事業

大雨、渇水など水への関心が高まるシーズンを迎えていますが、神奈川県では「将来にわたり良質な水を安定的に確保するため」の施策として平成19（2007）年度から20年間を目途とした水源環境保全・再生事業に取り組んでいます。これは個人県民税に上乗せされた税金（水源環境保全税）を財源に、5年間を1期とする実行計画に沿って行われていますが、昨年度までに第2期分が終了し、今年度から33年度までを期間とする第3期がスタートしました。事業の財源は毎年約40億円が確保されており、これまで10年間にわたる第1、第2期の施策について県は「荒廃が進んでいた私有林を重点的に整備したり食害被害をもたらしているシカの管理対策などさまざまに取り組んだ」「河川・水路の自然浄化、地下水の保全、県内のダム集水域における公共下水道や合併処理浄化槽整備などを着実に進めてきた」としています。これに対し県民会議からは「概ね順調」「一定の成果がみられる」との評価を受けています。

事業は今年度から折り返しの10年に入りますが当面の第3期（29～33年度）では、新たに土木工法も取り入れた森林の崩壊地対策に取り組み、森林の土壌保全対策を強化することにしています。これは平成22年度の台風9号来襲の際、県西地域では弱い地層が各所で崩壊し、水源涵養に重要な働きをしている森林の土壌が流出していたことが分かったことなどからです。またシカの生息域が丹沢から箱根や小仏（相模原）山地にも広がっており、森林への食害を防ぐためシカの捕獲地域を拡大強化したり、合併処理浄化槽整備の対象地域をこれまでの県内のダム集水域からさらに下流に広げることも計画されています。

水源環境保全・再生につながる森林づくり関連の事業として県ではほかに、2009年度から林業従事者育成のための「かながわ森林塾」を開いたり、県産材を活用していこうという「かながわ木づかい運動」、県民参加による「水源の森づくり」などを進めています。このひとつとして毎年夏には松田町のやどりき水源林で集いが開かれたりしています。また県ではデータを満載した冊子「かながわの農林水」を発行しており、7月から県政情報センターで有料頒布する予定です。

県の森林面積は全国で44位の9万4885ヘクタール（県土の39%）、その内の約55%が保安林に指定されています。また、「水源の森林づくり」では6万900ヘクタールの森林をエリアとしています。

コレが言いたい！

現在、国では個人住民税に上乗せする形で課税する「森林環境税（仮称）」の創設を検討しています。しかし、県では既に「水源環境保全税」を設けており、重複課税になる恐れがあります。人口減少や過疎化が進む山間部の市町村では森林整備に十分な財源が確保出来ず、間伐などの手入れが行き届かず、森林の荒廃が進んでいる事から新税の創設は必要と考えますが、地方自治体の実情にあった税の仕組みを検討するよう強く要望していきます。

今月のひと言

昨年7月に発生した津久井やまゆり園での大変痛ましい事件から1年を迎えます。お亡くなりになった方々への追悼の意を表明するため、県では7月24日に相模女子大学グリーンホールで追悼式を執り行います。改めて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にお悔やみを申し上げます。

磁子 あれ？これ？

区政90周年を記念して（磁子区の誕生）

磁子区は、昭和2（1927）年10月1日に誕生し、区政がスタートしました。 今の磁子区域は、明治11年に久良岐郡の中の14村の地域でした。明治34年根岸村が横浜市に編入されたのを始め、明治44年と昭和2年の計3回に亘って横浜市の一部となりました。 同時に昭和2年に横浜市は、市域を5つ（磁子・中・神奈川・保土ヶ谷・鶴見）に分けました。

磁子区の中で根岸地区は、外国人居留地の山手に近い所であったことから、西洋野菜の栽培が盛んでした。また屏風ヶ浦地区は、海に面した所で半農半漁が営まれました。上笹下地区は、米作や畑作農家、花卉栽培などが盛んでした。 磁子区は、5区の中で一番小さく、人口は29，824人でした。区役所が置かれた場所は、今の磁子警察署のあたりで、近くには警察署・消防署・水道局磁子出張所・横浜法務局磁子出張所が在り、およそ40年間区の中心地となっていました。 当時、区役所の職員は35名でそれまで横浜市がおこなっていた戸籍・民事・納税事事務等市民に直接関係のある業務を引き継ぎました。 区庁舎の竣工は同年12月10日で、これが横浜市内の区役所庁舎新築の第一号となり、18日から業務が開始されました。

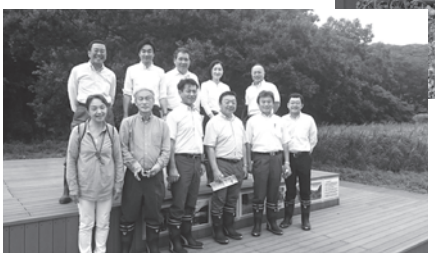
そして、昭和3（1928）年3月に開庁記念式典がおこなわれ、磁子芸者や音曲師・三太郎が余興を披露して、式典に詰めかけた市民も一緒に開庁を祝いました。

参考：磁子の史話、浜・海・道より

活動報告

支援している「神奈川盲ろう者ゆりの会」が第40回横浜キワニスクラブ社会公益賞を受賞され、授賞式に出席致しました。盲ろう者とは、「目（視覚）と耳（聴覚）の両方に障害を併せもつ人」のことで、「光」と「音」が失われた状態で生活しているため、独力でコミュニケーションや情報入手、移動ができない、あるいは極めて困難な状態に置かれています。

チゴガニのダンスが見られる小網代の干潟



環境農政部会と慶應義塾大学名誉教授の岸由二氏と。

6月26日、自民党環境農政部会で小網代の森の視察を行いました。

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日　横浜市磁子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 環境農政常任委員会委員
- 社会福祉審議会委員
- 社会問題対策特別委員会副委員長
- 政務調査会副会長

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-751-7600